

《令和5年度》

# 第5次地域福祉活動計画

(令和4年度～令和8年度)

## 実施状況報告

社会福祉法人小千谷市社会福祉協議会

# 〈社会福祉協議会の取り組み〉

## 第5次地域福祉活動計画 取組項目一覧

基本計画	取組番号	取組項目	実施事業
1. ふれあい・支えあう地域づくり	1	福祉会でつながる地域づくりの推進	福祉会・いきいきサロン活動の育成・支援
			福祉会・いきいきサロンの設立支援
			地域共生の居場所づくり支援
	2	お互いさまの支えあいを推進	生活支援サービスあちこたネットおぢやの実施
			生活支援サポーター養成講座の開催
			第2層生活支援コーディネーターとの連携
2. いたわりとやさしさの心をもつ人づくり	3	未来へつなぐボランティアの育成	ボランティアセンター機能の充実
			ふくし・ボランティアかれっじの開催
			福祉ふれあいフェスティバルの開催
	4	ふくしの心を育むために実施するもの	社会福祉普及校事業の実施
			福祉・ボランティア情報の充実、拡大
			ふくし出前講座の開催（新規）
3. 安心して暮らすためのネットワークづくり	5	相談からふだんのくらしを しあわせにつなぐ	ふれあい福祉センター相談所の運営
			生活福祉資金等貸付事業の実施
			日常生活自立支援事業の実施
			法人後見事業の実施
	6	見守り・つながりあう関係づくりの推進	配食サービス事業の実施
			男性料理教室の実施
			救急医療情報キット配付事業の実施
			おぢや子ども笑顔プロジェクトの実施
			こども食堂の実施

\* 取組結果についての評価の記載について

◎ 計画どおり    ○ ほぼ計画どおり    △ あまり進まなかった    × 進まなかった

第5次地域福祉活動計画 実施状況

(令和5年度)

取組項目1. 福祉会でつながる地域づくりの推進	
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉会のない地域や町内に懇談会や体験講座を開催し、地域福祉に対する理解が深まるよう働きかけます。</li> <li>・既存の福祉会やいきいきサロンには、研修会や情報交換の場を設け、ニーズに合わせた住民主体の活動ができるよう支援します。</li> <li>・福祉会と町内会、老人クラブの連携強化に向け支援します。</li> <li>・いきいきサロンに地域のお茶の間として対象者を広げるよう働きかけをします。</li> <li>・地域のつながりを必要とする子育て中の方や障がいのある方、ひきこもりの方、生きづらさを抱える方など誰でも、共に過ごせる地域の居場所づくりを支援します。</li> </ul>

年次計画					
実施事業	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
福祉会・いきいきサロン活動の育成・支援	継続				
福祉会・いきいきサロンの設立支援	継続				
地域共生の居場所づくり支援（新規）	検討・講座開催		居場所づくり		

進捗状況（評価指標等）		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
福祉会設立数 (R3年度基準値：29か所)	目標値	30	31	32	33	34
	実績値	29	29			
いきいきサロン開設数 (R3年度基準値：38か所)	目標値	39	40	41	42	43
	実績値	39	39			
地域共生の居場所開設数 (R3年度基準値：—)	目標値	—	—	1	1	2
	実績値	—	1			

令和5年度の取組結果		評価
福祉会・いきいきサロン活動の育成・支援	6月・2月福祉会連絡協議会打合せ会開催。研修会として福祉推進員研修会（8月）による福祉推進員のスキルアップ、夏季研修会（9月）では居場所づくりの啓発、合同研修会（3月）では各福祉会での活動の情報交換により福祉会活動促進に向けた支援を図る。福祉会活動費助成29団体	◎
福祉会・いきいきサロンの設立支援	福祉会設立数は29か所、サロン開催数は39カ所で横ばい。吉谷地区での福祉会設立に向け地区内の福祉関係団体に対し福祉会の概要や設立までの流れについての情報提供を行う。	△
地域共生の居場所づくり支援（新規）	協力員懇談会（6月～7月）や9月開催の「居場所づくり講演会」講演会を通じ、地域福祉関係者や住民に対する地域共生の居場所づくりの普及啓発を継続。また昨年からの取り組みを経て福祉会活動においても多世代参加による居場所づくりが拡大、稲荷町福祉会では多世代の居場所『いきいき広場』を年4回開催。各福祉会の多世代の居場所づくりに係る取り組みについて福祉会合同研修会（3月）にて報告会を実施、福祉会関係者へ周知する。	◎

見直し・改善・今後の進め方
<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉会については各種研修会の開催、アウトリーチによる意見交換により活動を支援します。また福祉会活動費について、従来の助成メニューに加え新たに多世代交流の居場所づくりや買い物支援活動に対し補助をしていくことで、地域ニーズに即した事業の活性化を図っていきます。</li> <li>・地域共生の居場所づくりに向けては、次年度も引き続き講座や視察を通じ意識と気運の醸成を図っていきます。</li> </ul>

第5次地域福祉活動計画 実施状況

(令和5年度)

取組項目2. お互いさまの支えあいを推進

実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者や障がい者の日常生活ニーズを地域で支えるしくみである「あちこたネットおぢや」について普及啓発し、担い手（生活支援サポーター）を増やし、多くの利用ニーズに応えるしくみとして強化します。</li> <li>・「あちこたネットおぢや」の担い手を継続的に確保するため、養成講座を開催するとともに、サポーター同士が情報共有できる機会を設けます。</li> <li>・第2層生活支援コーディネーターと連携し、地域住民の困りごとの声やニーズを把握し、生活支援体制の整備・拡充を図ります。</li> </ul>
------	--

年次計画

実施事業	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
生活支援サービスあちこたネットおぢやの実施	継続				
生活支援サポーター養成講座の開催	継続				
第2層生活支援コーディネーターとの連携	継続				

進捗状況（評価指標等）		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
生活支援サポーター養成講座新規修了者数/ 新規登録者数（R3年度基準値：4人/3人）	目標値	6/4	8/5	10/7	12/9	15/12
	実績値	6/4	3/2			
あちこたネットおぢやサポーター登録 数（R3年度基準値：66人）	目標値	68	70	72	74	75
	実績値	79	85			
あちこたネットおぢや利用会員数 （R3年度基準値：20人）	目標値	23	25	28	32	35
	実績値	40	44			

令和5年度の取組結果		評価
生活支援サービスあちこたネットおぢやの実施	サポーター登録会員85名。実利用者44名。延活動回数1,293件。主な活動としてゴミ捨てや掃除の支援。新規相談48件。延相談227件。登録者相談及び調整71件。昨年に引き続きサポーター連絡会を開催	◎
生活支援サポーター養成講座の開催	例年通り3回コースにて開催（第1回：6/23「あちこたネットおぢやについて」「掃除技術の基本について」、第2回：7/4「高齢者と障がい者の理解」「傾聴講座」、第3回：7/21「先輩生活支援サポーターから学ぼう」）。受講延人数19名中3名に修了者証交付。新規サポーターとして2名登録	△
第2層生活支援コーディネーターとの連携	生活支援体制整備事業事務局として第1層、第2層SCと連携し生活支援体制整備事業の普及啓発（桜町連絡協議会、西小千谷町内会会議、東小千谷民生委員、町内会長会議）、片貝地区にて生活支援サポーター養成講座を開催	○

見直し・改善・今後の進め方

<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活支援サポーターの確保に向けては、より多くの方から受講・サポーター登録していただくべく、講座の内容や開催方法を見直していきます。</li> <li>・生活支援コーディネーターと連携しながら町内会や福祉会・民生委員児童委員等地域内の組織と支えあい組織とのつながり、また市内の支えあい組織間の横のつながりを強めるための場を作っていくことで、市全体の支えあい活動の活発化を図ります。</li> </ul>
--

第5次地域福祉活動計画 実施状況

(令和5年度)

取組項目3. 未来へつなぐボランティアの育成

実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアセンターでは、総合相談窓口として市民のボランティア活動を支援しています。今後もボランティアグループの協力をいただき、各種講座を開催します。また、ボランティア連絡協議会の支援を継続します。</li> <li>・ふくし・ボランティアかれっじを開催し、基礎科目（入門講座・傾聴講座）、選択科目（手話・要約筆記・音声訳・点訳・ふれEye ボランティアスクール等）を受講後、興味のあるボランティアグループを見学・体験し、ボランティア活動に参加しやすくします。</li> <li>・福祉団体やボランティアグループの活動を市民にPRする機会として、福祉ふれあいフェスティバルを開催します。</li> </ul>
------	--

年次計画

実施事業	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
ボランティアセンター機能の充実	継続				
ふくし・ボランティアかれっじの開催	継続				
福祉ふれあいフェスティバルの開催	継続				

進捗状況（評価指標等）		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
ボランティア連絡協議会加盟グループ数（R3年度基準値：41グループ）	目標値	42	42	43	44	45
	実績値	44	44			
ふくし・ボランティアかれっじ受講者延べ人数（R3年度基準値：250人）	目標値	270	290	310	330	350
	実績値	196	471			
福祉ふれあいフェスティバル参集者数（R3年度基準値：—）	目標値	800	900	1,000	1,100	1,200
	実績値	510	818			

令和5年度の取組結果

令和5年度の取組結果		評価
ボランティアセンター機能の充実	ボランティア連絡協議会（加盟44団体612名、他個人会員3名）の活動支援として、該当する37団体へ助成金交付。また連絡協議会運営委員会（4回）の開催やボランティアふれあい交流会を実施（12月） 24時間テレビチャリティ・キャンペーン協力（8月26～27日）市内高校生9名が参加協力、高校生ボランティアの育成に努める。 また災害ボランティアセンター設置訓練の実施、能登半島地震チャリティ上映会を開催（1月）、参加費総額373,552円の寄付を通じ被災地を支援する。	◎
ふくし・ボランティアかれっじの開催	令和4年度より開催している『夏！ボラ体験プログラム』を通じ多くの子ども・親子で参加いただき、若い世代がボランティアや福祉に触れるきっかけづくりつながる。また日常生活自立支援事業生活支援員養成講座の開催による支援員育成、災害ボランティア講座の開催による災害ボランティア育成等、福祉人材の養成に努める。	◎
福祉ふれあいフェスティバルの開催	令和5年10月7日（土）に社協単独開催。ボランティアグループによる活動体験コーナーや活動ポスターの掲示、遠藤麻理さん講演会、福祉バザーや縁日コーナーに多くの親子連れが参加、福祉やボランティア活動についてふれていただく。	○

見直し・改善・今後の進め方

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア人材の確保に向け「ふくしボランティアかれっじ」の開催、ボランティア団体同士の横のつながり作りの支援、ボランティアセンターのPR方法の見直し等を行います。</li> <li>・「福祉ふれあいフェスティバル」に多くの方から参加していただく企画を検討します。</li> </ul>
---

第5次地域福祉活動計画 実施状況

(令和5年度)

取組項目4. ふくしの心を育むために実施するもの

実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の全小・中・高等学校・総合支援学校を社会福祉普及校に指定し、活動のための助成金交付や福祉体験学習の支援を継続します。</li> <li>・福祉学習の幅が広がるよう、福祉学習メニュー表の内容の追加や見直しを行います。</li> <li>・社協情報発信のため、毎月1回「社協だより」を全戸配布、ホームページの記事をリアルタイムに更新します。SNSの種類を増やし、福祉・ボランティア情報を幅広い年代層に発信します。</li> <li>・社協だよりは随時スタイルを見直し、幅広い世代の方に読んでいただくための工夫をしながら発行します。</li> <li>・学校・企業・事業所・町内会等へふくし出前講座を開催し、地域福祉やボランティアについて理解促進を図ります。</li> </ul>
------	---

年次計画

実施事業	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
社会福祉普及校事業の実施	継続				
福祉・ボランティア情報の充実・拡大	継続				
ふくし出前講座の開催（新規）	検討	開催 PR・実施			

進捗状況（評価指標等）

		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
福祉体験学習の実施回数/参加人数 (R3年度基準値：20回/506人)	目標値	21/506	22/515	23/525	24/540	25/550
	実績値	28/1,061	19/930			
広報手段の種類（SNS含む） (R3年度基準値：3種)	目標値	3	3	3	3	3
	実績値	3	3			
企業・事業所等へのふくし出前講座回数 (R3年度基準値：—)	目標値	1	1	1	2	3
	実績値	0	2			

令和5年度の取組結果

		評価
社会福祉普及校事業の実施	福祉普及校担当者打合せ会（5月、12名参加）。社会福祉普及校助成16校。小中高等学校等からの依頼により各学校へ出向き、車椅子、高齢者体験、手話・点字学習等の支援。福祉体験学習実施回数は19回、10学年より延べ930名の児童・生徒が参加	○
福祉・ボランティア情報の充実・拡大	社協だより（毎月発行）、ホームページ、SNS（Facebook）による情報発信は継続。音声訳ボランティアの協力による社協ホームページを音声訳化、視覚障がいの方に対する情報発信強化につなげる。	○
ふくし出前講座の開催（新規）	ふくし出前講座パンフレットを作成、企業向けボランティアだより（毎年1回発行：160社に送付）に同封し周知を図る。企業からの依頼はなかったものの、福祉会・サロンから2件依頼あり。	○

見直し・改善・今後の進め方

<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉体験学習については、より多くの学校での実施に結びつくよう、ボランティア団体や関係機関と連携しながら様々な福祉教育メニューを検討、福祉普及校担当者打合せ会や福祉学習メニュー表にて提示していきます。</li> <li>・福祉・ボランティア情報については、社協だよりやSNS、社協HPの随時更新を継続することで発信していきます。</li> <li>・ふくし出前講座については出前講座メニューの一覧を活用し、ボランティアだより配布時に同封すると共に、共同募金会等と連携しながら企業に対し直接案内をしていきます。</li> </ul>
--

第5次地域福祉活動計画 実施状況

(令和5年度)

取組項目5. 相談から㊦だんの㊧らしを㊨あわせにつなぐ

実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気軽に相談できる窓口として、ふれあい福祉センター相談所の運営を継続します。</li> <li>・資金貸付事業は、生活困窮者自立支援等と関連して、市担当課や担当民生委員児童委員と連携を図りながら、継続して支援します。</li> <li>・日常生活自立支援事業を利用することで住み慣れた地域で暮らせるよう支援します。</li> <li>・法人として成年後見人等を受任し、判断能力が十分でない方の権利・生活を守るための権利擁護を支援します。</li> </ul>
------	--

年次計画

実施事業	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
ふれあい福祉センター相談所の運営	継続				
生活福祉資金等貸付事業の実施	継続				
日常生活自立支援事業の実施	継続				
法人後見事業の実施	継続				

進捗状況（評価指標等）		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
ふれあい福祉センター相談所 相談件数 (R3年度基準値：130件)	目標値	130	135	140	145	150
	実績値	102	112			
生活福祉資金貸付事業相談延べ件数/貸付件数 (R3年度基準値：385件/86件)	目標値	120/20	40/5	40/5	40/5	40/5
	実績値	155/20	136/3			
たすけあい資金貸付事業相談延べ件数/貸付件数 (R3年度基準値：20件/0件)	目標値	20/1	20/1	20/1	20/2	20/2
	実績値	16/0	11/2			
日常生活自立支援事業相談延べ件数/利用者数 (R3年度基準値：520件/17人)	目標値	520/17	525/18	530/20	535/21	540/22
	実績値	749/22	809/23			
法人後見事業相談件数/利用件数 (R3年度基準値：2件/2件)	目標値	3/3	4/4	4/4	5/5	5/5
	実績値	1/4	0/1			

令和5年度の取組結果

	評価
ふれあい福祉センター相談所の運営	○
生活福祉資金等貸付事業の実施	○
日常生活自立支援事業の実施	◎
法人後見事業の実施	○

見直し・改善・今後の進め方

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれあい福祉センター相談所については、社協だより等で周知に努め、市民の相談窓口として引き続き運営していきます。</li> <li>・権利擁護事業について支援ニーズは年々増加傾向です。特に日常生活自立支援事業では、実働できる生活支援員の減少によりひとり当たりの負担が増していることから、生活支援員養成講座の開催により新規支援者を確保し、より多くの支援ニーズに対応できるよう努めていきます。</li> </ul>
--

第5次地域福祉活動計画 実施状況

(令和5年度)

取組項目6. 見守り・つながりあう関係づくりの推進

実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>ひとり暮らし高齢者の見守りや安否確認のため、ボランティアによる配食サービス事業を継続します。</li> <li>男性料理教室を継続し、食生活の自立や生きがい・仲間づくりを支援します</li> <li>緊急時に適切な医療活動につながることで安心して在宅生活が送れるよう、救急医療情報キット配付事業を継続します。</li> <li>おぢや子ども笑顔プロジェクトの内容を検討し、ひとり親世帯が必要な支援を実施します。また、子どもの食と居場所を支援するため「こども食堂」について検討します。</li> </ul>
------	---

年次計画

実施事業	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
配食サービス事業の実施	継続				
男性料理教室の実施	継続				
救急医療情報キット配布事業の実施	継続				
おぢや子ども笑顔プロジェクトの実施	継続				
子ども食堂の実施	調査・検討	継続			

進捗状況（評価指標等）		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
配食サービス利用者数 (R3年度基準値：281人)	目標値	284	288	292	296	300
	実績値	290	275			
男性料理教室参加者数 (R3年度基準値：146人)	目標値	155	161	167	173	180
	実績値	122	122			
救急医療キット配布数 (R3年度基準値：121件)	目標値	127	133	139	145	150
	実績値	131	137			
おぢや子ども笑顔プロジェクト利用者数 (R3年度基準値：22件)	目標値	22	27	32	37	40
	実績値	61	56			
子ども食堂の実施 (R3年度基準値：—)	目標値	—	—	1	1	1
	実績値	—	1			

令和5年度の取組結果

		評価
配食サービス事業の実施	5地区（西小千谷、東小千谷、東山、片貝、岩沢）にて月2回、70歳以上のひとり暮らし及び高齢者のみの世帯で希望する275名に、見守りや安否確認を目的に昼食弁当を配達。また年末には「おせち料理」を配達	○
男性料理教室の実施	65才以上の男性を対象に毎月第2火曜日開催。会員は28名、参加者延122人。入院による不参加、会員登録するも1年以上参加のない方も増えてきており延べ参加者数は昨年と横ばい	○
救急医療情報キット配布事業の実施	社協ホームページ、協力員懇談会、民生委員児童委員協議会、地域救急医療に関する体制会議等による関係機関への周知、消防本部と情報共有による連携により事業の浸透を図る。6件新規配布	○
おぢや子ども笑顔プロジェクトの実施	ひとり親世帯の小学生以下の子どもを対象に、お正月福袋（フードバンクにご寄付いただいた食料、お菓子の詰め合わせ、こども商品券）を41世帯56名の子どもに配布。あわせて就学に係る資金貸付について情報提供	◎
子ども食堂の実施	サンラックおぢやを会場に、子どものみでなく多世代の方が集う地域食堂『みんなの食堂』を開催（7月：72名、3月：107名、延179名来場）	◎

見直し・改善・今後の進め方

<ul style="list-style-type: none"> <li>救急医療情報キット配布事業については、消防本部救急隊との連携を継続するとともに、協力員懇談会や民生委員児童委員、福祉会合等の地域関係者が多く集う場にてキットの紹介を行い、より多くの方に情報が届くよう努めます。また現利用者に対しては、社協各種事業を通じキット内医療情報の記入項目の随時更新を周知します。</li> <li>おぢや子ども笑顔プロジェクトを通じ、申請のあった世帯に定期的に生活に役立つ情報や集いの場の提供等、つながりを絶やさない工夫をしていきます。</li> <li>子ども食堂については地域食堂として事業を継続し、ひとり暮らし高齢者事業「あけびの会」と連携しながら様々な世代・立場の方が過ごせる場づくりを進めていきます。</li> </ul>
--



## 〈地域ごとの取り組み〉

令和6年6月17日～24日にかけて市内5地域において協力員懇談会を開催しました。参加者は、町内会長、民生委員児童委員・主任児童員、市議会議員、社協理事・監事・評議員の皆様です。

当日は社協事業説明後、地域支えあい事業と生活支援コーディネーターの活動について説明、また各地域で活動する第2層生活支援コーディネーターの紹介により、小千谷市で進める生活支援体制整備事業についてご確認いただきました。後半は第5次地域福祉活動計画の「地域ごとの取り組み」について、参加者アンケートを実施、ご意見や評価をいただきました。

地域福祉活動計画が皆様の中にどれだけ浸透しているか、計画した取り組み項目に対する地域の実施状況について、ご自身でどう感じているかA～Dで評価していただきました。

結果については、次ページ以降に地域ごとにまとめましたのでご覧ください。第5次地域福祉活動計画について、参加された方のうち『内容も知っている』方は37%（昨年比11%増）、『計画があることは知っている』方は43%（昨年比10%減）、『初めて知った』方は20%（昨年比1%減）でした。

より広く地域の方に知っていただくため、引き続き社協だよりやホームページにおいて地域福祉活動計画の評価を報告し、地域の集まりの場に伺った際にはPRし周知を図っていきます。

6/17 東小千谷・東山地域



6/18 南部地域



6/21(AM) 千田地域



6/21(PM) 西小千谷地域



6/24 片貝地域



評価の見方（4段階評価）

A：実施されている B：まあまあ実施されている C：あまり実施されていない D：実施されていない

**西小千谷地域** 西小千谷地区・城川地区・吉谷地区・山辺地区の一部

(山本・西中・池ヶ原・古田・池中新田・上片貝)

取組項目 1. 住民全員が参加し、つながりある地域をつくろう		評価			
		A	B	C	D
地域では	福祉会のない地域や町内は、福祉会設置に向けた取り組みをします	13	11	15	16
	既存組織や活動を通じ、若手の参加を呼びかけ交流の機会を確保します	9	14	28	9
個人では	福祉会活動を理解します	17	25	16	2
	「向こう三軒両隣」を意識し、近隣同士の声掛け、誘い合い、見守りをします	17	26	16	6

A 24%  
B 32%  
C 32%  
D 12%

《自由記載より》・近隣の助けあいは必要と感じるが、一方で他人の世話にはなりたくないという風潮もある。その兼ね合いをどう採っていくか悩む。困ったときには助け合うという風潮を育てることが大切 ・若手の参加に向けては、小さい子どもの頃から積極的に地域行事に参加することが大事 ・福祉会など作らなくても隣同士声掛け手助けしていると言われ先に進められない

取組項目 2. 子どもから高齢者まで地域活動に参画し、活躍できる地域づくりをしよう		評価			
		A	B	C	D
地域では	学校、PTA と協力し、長期休み中の生徒に福祉活動へ参加してもらい、次代の担い手の育成をします	7	18	23	12
	多世代の共同作業の中でリーダーや若い世代の担い手を育てていきます	6	20	22	12
個人では	近所や友人と誘い合って参加します	12	25	18	5
	町内の活動に積極的に参加します	34	21	3	2

A 25%  
B 35%  
C 27%  
D 13%

《自由記載より》・役員のなり手が少なく、経験者から次の世代への引き継ぎがうまくできていない状況、人ごととして受け止めてしまっている ・コロナ禍以降無くなった町内行事も多く、子どもから高齢者までの交流が難しい。また一度なくなった行事を復活させるのも労力がある

取組項目 3. 地域の中で福祉活動を充実させよう		評価			
		A	B	C	D
地域では	住民が地域の資源を知ることができるよう、地域内の組織や仕組みを周知します	9	19	26	6
	役割を持てる場や仕組みづくりに取り組みます	4	25	23	8
個人では	地域の生活課題に関心を持ち、解決に向け考え行動します	15	28	13	4
	「ちょっとした手助け」を実行します	12	33	15	0
	集いの場に参加します	20	30	9	1

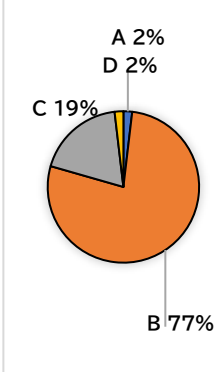
A 20%  
B 45%  
C 29%  
D 6%

《自由記載より》・地域内で毎年活動内容が変わらず、新たな課題も出てこない ・地域での福祉活動をバックアップする様々な方法が必要になってきている（例えば長岡市のように民生委員の協力員を設けるなど） ・コロナ禍を引きずっている地域もあり、コミュニケーションの場が少なくなっている。町内会にて再協議が必要

**社協では！**

個人での取り組み、特に町内活動や集いの場への参加を評価する方が多く、いかにして地域活動につないでいくかがこれから取り組む課題と考えます。社協は福祉会のない地域や町内には福祉会設置に向けた働きかけ、また福祉会のある地域については福祉会を通じた地域福祉活動の支援を継続することで、個人の思いや取組を地域全体の思い、取組につなげていけるよう支援を継続していきたいと考えます。

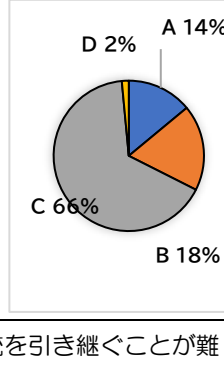
取組項目 1. 地域の中でいろんな世代の方と関わり、つながりをつくらう		評価			
		A	B	C	D
地域では	伝統行事など、子どもから若い世代が地域に愛着を感じられる活動を行います	16	14	5	0
	ひとり暮らしの方が地域から孤立しないよう、地域全体で見守ります	6	22	5	1
個人では	地域のことを知るようにします	14	19	1	0
	子どもから高齢者まで欠かさずあいさつをします	15	13	5	1
	常日頃より顔を合わせて話をする事で、近所の方との関係づくりをします	15	15	4	0



評価	割合
A	2%
B	77%
C	19%
D	2%

《自由記載より》・活動している人たち（役員、町内会長等）にまかせておけばいいとの認識 ・ある程度の年齢（高齢）の方は関わりがあるが、同居している子供世代との交流が希薄 ・地域への愛着を深めるために、伝統行事などは大切にしていける必要あり ・プライバシーに関係するので、どこまで話してもらえるか考えてしまう ・手助けしてほしいという家をどうしたら手助けできるか。手助けはよいと思うができない状態

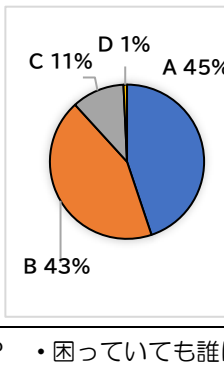
取組項目 2. じぶんの地域の福祉会や福祉活動を知り、できることから参加してみよう		評価			
		A	B	C	D
地域では	福祉会活動、地域の支えあい活動の理解促進に向け、多くの住民に周知します	10	14	9	1
	青年会や万灯会への支援や連携により、新たな担い手を発掘し、育成します	5	15	10	4
個人では	地域の福祉会や支えあい活動などの福祉活動について理解します	19	14	1	0
	町内行事や地域活動に誘い合い、参加します	13	19	2	0



評価	割合
A	14%
B	18%
C	66%
D	2%

《自由記載より》・地域の若い世代は子育てや自分の仕事に忙しくなかなか活動に参加できないので、伝統を引き継ぐことが難しくなってきた ・子供を通じての町内行事や地域活動の参加は一定数あると思うが、子供がいない若い世代の参加をどう促すかが課題 ・誘うことが相手にとってどうなのか迷う ・（東小千谷）11 町内と連携し情報を共有したい

取組項目 3. 困ったときは相談でき、助けあえる地域にしよう		評価			
		A	B	C	D
地域では	福祉会や町内会、支えあい組織による見守りや支援体制を確保します	12	15	6	1
	困りごとがあったら、町内会や福祉会、民生委員が連携し関連組織へつなげます	17	13	4	0
個人では	じぶんでできそうなことは、手助けをします	17	15	2	0
	困っている（いそいな）人がいたら声を掛け、困りごとを聞きます	15	16	3	0



評価	割合
A	45%
B	43%
C	11%
D	1%

《自由記載より》・まだまだ市内の相談窓口を知らない方が多い。市全体のマップを作成し、配布しては？ ・困っていても誰かに相談してよいかわからない人がたくさんいると思う。もっと気楽に相談できる人がいたら安心して生活できる ・支えあい組織による見守り、支援体制の確保は高齢化率の上昇と相まって急がれること ・個人がより重視される世の中であるので、どうかかわるか難しい問題

**社協では！**

取組項目 3 の評価からも、近隣で助け合える地域であると感じている方が多い一方、少子化による若年層の活動参加の減少、活動の担い手の世代交代に関する課題や意見が多く挙がりました。社協としては、現に実施されている地域福祉活動の支援、地域福祉活動助成金交付事業を通じ町内行事の活性化を進め、若い世代の参画を通じ新たな活動に担い手の確保が図れるよう支援したいと考えます。

**千田地域** 千田地区・五辺高梨地区

取組項目 1. 地域活動参加を通じ、住民同士のつながりづくりをしよう		評価				
		A	B	C	D	
地域では	地域行事や集いの場など、子どもから高齢者まで集える場づくりをします	2	3	1	1	
	様々な世代の方が交流できる場をつくります	0	3	4	0	
	既存の地域行事の中で若手が役割を持てるようにします	0	2	3	2	
個人では	地域行事に積極的に参加し、いろんな世代と交流する機会を持ちます	2	5	1	0	
	平日頃より近隣や地域の人同士が気軽に話せる関係を作ります	0	5	3	0	

《自由記載より》・町内行事や集いの場で交流することは多いものの、逆に町内の班活動や交流の場が少なく、近隣の方たちと離れる機会が少ない ・コロナ禍で各種活動を休止し、それに慣れてしまい活動再開に消極的な面があるかもしれない ・いつも高齢者が中心になりすぎている

取組項目 2. 福祉会活動や地域の福祉活動に参加してみよう		評価				
		A	B	C	D	
地域では	福祉会、支えあい活動の内容を周知し、若い世代への理解促進を図ります	0	2	5	0	
	若手主体の組織との連携、伝統芸能行事等を通じ若い人と共に活動する機会をつくります	1	4	2	0	
	役割や健康増進活動により高齢になっても役割を持てるような取り組みをします	1	3	3	0	
個人では	福祉活動について学び、できることから参加します	2	4	1	1	
	介護予防、健康寿命増進に向け取り組んでいきます	0	4	3	1	

《自由記載より》・地域支えあい活動を町内で実施していることはわかっているが、いざとなると依頼することをためらっているのでは。どこまで踏み込めていけるか ・若い世代の理解促進活動は少ないように思うが、今年は伝統芸能行事を共に活動する機会が多い

取組項目 3. お互いに支えあい、助けあえる地域にしよう		評価				
		A	B	C	D	
地域では	地域の中で助けあい、支えあい活動を組織化し、実施します	3	2	1	1	
	地域の中での支えあいの必要性を住民に周知します	1	4	1	1	
個人では	できる範囲で活動に参加します	1	6	1	0	
	困っている人には手を貸します	2	5	1	0	
	困ったときは個人で悩まず、町内に相談します	1	5	2	0	

《自由記載より》・第一歩は「おとなり」との日常のお付き合いである ・福祉会や支えあい活動で助け合える組織はあるものの、個人的に手を貸す（求められる）場面はほとんどない ・困っている人が手を上げづらいのでは？

**社協では！** 評価より地域の中での組織化や個人での助け合いの意識が醸成されていることが窺えます。少子高齢化もあり、若い世代との交流や役割の確保、地域で行う福祉活動の理解促進に対しての課題が多く挙がりました。社協としては、福祉会活動による世代間交流、地域福祉活動助成金交付事業の周知により千田地区での地域行事の開催を促し、多世代による地域活動参加につなげられるよう支援したいと考えます。

**南部地域** 川井地区・岩沢地区・真人地区・山辺地区の一部（上坪野・細島・塩殿・卯ノ木）

取組項目 1. 今あるつながりを保ちながら、新たなつながりを育んでいこう		評価				
		A	B	C	D	
地域では	地域内で誘い合い、地域の集いに大勢の方が参加できるよう住民に働きかけます	7	13	3	2	
	若い世代に地域行事の中で役割を持ってもらい、楽しみながら「自分の地域」を身近に感じてもらう機会を設けます	4	8	8	5	
	ひとり暮らしの方には隣近で気かけ、声掛けをすることで地域から孤立する方を出さないようにします	12	9	3	1	
個人では	近所同士のあいさつ、ちょっとした声掛けや誘い合いを続けます	17	6	1	1	
	地域行事に積極的に参加し、いろんな世代と交流する機会を持ちます	10	13	1	1	
	常日頃より近隣や地域の人同士が気軽に話せる関係を持ちます	15	8	1	1	

《自由記載より》・とにかく子供や若い世代がいない。高齢者同士のつながりで補完していく ・若い世代は会社でも重要な役割を担っている形も多く、役割を持ってもらうにしてもフォローが必要 ・人手不足の中組織も増えサービスも増えている。組織作り自体にもフォーカスする必要あり ・コミュニティ推進の取組を公民館事業と併せて活動してはどうか

取組項目 2. 地域のみんで地域福祉活動に取り組んでいこう		評価				
		A	B	C	D	
地域では	役割づくりや活動機会の確保により、高齢でも達者でいられるようにします	3	18	3	1	
	地域福祉活動を通じ、子どもから高齢者まで様々な世代が役割を持てるようにします	1	7	14	3	
個人では	健康寿命の増進を意識し、介護予防や役割づくりに努めます	2	14	8	1	
	自分でできる福祉活動について考え、積極的に参加します	5	8	10	2	

《自由記載より》・65歳を過ぎても仕事に現役としてフルに関わっているから時間が作れない ・子どもがいないことから世代毎の役割は難しく、対象者の固定化などマンネリ化の傾向にある ・活動を行う人材を確保することが心配。現在もその傾向あり ・若手も生活が大変。参加できないことで若者批判にならないよう注意しないと

取組項目 3. 地域や近隣の助けあいを続けていこう		評価				
		A	B	C	D	
地域では	今ある組織や仕組みを活用して、近隣住民で困り事が解決できる仕組みをつくります	5	11	8	1	
	困った時に支援の受け皿となる機関につなげます	4	14	6	1	
個人では	支援が必要な方に対し、自分ができる見守りや支援を行います	10	9	5	1	
	困ったときは近所の人や地域の人に相談します	10	9	5	2	

《自由記載より》・プライバシー問題（個人情報）があり、深く入り込めない ・現状そこまで問題ないため、意識がなかなか変わらないのでは？ ・福祉に関し個人、団体に話し合う事がない気がする

**社協では！**

個人と個人・地域とのつながりも強く、それが地域や近隣同士の交流や助けあいに結びついている一方で、少子高齢化による若い世代の地域参加を通じた役割作り・世代交代が課題であり、現状の体制の維持に向けた懸念や意見も多く挙がりました。個々のつながりを南部地域の強みと捉え、福祉会や生活支援コーディネーターとの連携を通じ引き続き地域福祉活動の体制づくりに向け支援したいと考えます。

**片貝地域** 片貝地区

取組項目 1. 地域内の一体感を強みに、子どもから高齢者までつながっていきこう		評価			
		A	B	C	D
地域では	地域ぐるみでひとり暮らし高齢者や高齢世帯の把握、見守りをしていきます	8	10	6	2
	福祉会・町内会・民生委員が連携しながらひとり暮らし高齢者などの把握をし、地域内での見守り体制の構築を図ります	8	11	2	4
個人では	何気ない言葉がけ、あいさつ、交流の場へお誘いをしていきます	8	11	7	0
	関係者や地域内で情報共有をできるよう、ちょっとしたことでも情報提供していきます	4	13	8	1

D 7% A 44%  
C 11% B 38%

《自由記載より》・立場上できることは進めていきたいが、個人情報の関係もあり課題も多い ・若い世代が無関心であることが今後心配 ・高齢化と少子化の進展で活動が縮小する恐れがある ・コロナ禍を挟み閉じこもりがちな高齢者も増えている。地域活動の復活がとても大事 ・

取組項目 2. 地域にある福祉活動組織の活動を知り、参加しよう		評価			
		A	B	C	D
地域では	福祉会活動・ささえ～る片貝の活動を周知していきます	5	8	10	3
	様々な地域活動の中で、若手の参加を促す気運、仕組みをつくっていきます	1	4	17	3
個人では	福祉会やささえ～る片貝がどんな活動をしているか見聞かし、必要な方に情報提供します	6	9	7	4
	自分ができることは協力します	8	12	4	2
	若い世代に関心を持ってもらえるよう声掛けし、活動参加を促します	2	5	13	6

D 7% A 11%  
C 35% B 47%

《自由記載より》・若手が参加する場所などが具体的に必要 ・町内の中に今のところ支援が必要な人は少ないが、一人暮らし高齢者は話し相手がいれば良いと思う ・若い世代にもできることがある、と伝えられておらず、福祉活動自体があまり認知されていない可能性がある

取組項目 3. 地域住民同士で助けあい、支えあえる地域にしよう		評価			
		A	B	C	D
地域では	地域の各組織のつながりを強みに、横のつながりを強化し福祉課題解決に取り組んでいきます	3	10	12	1
個人では	近隣や友人など地域のつながりを活用し、情報を伝えたり聞いたりして共有します	5	15	6	0
	今ある地域の資源を存分に活用します	2	13	10	1

D 4% A 29%  
C 24% B 43%

《自由記載より》・個人の困り事を把握する機会が少ない ・老人会の活用をもう少し検討 ・片貝総合センターの活用をもっと増やす ・他者のうわさ話は時折入ってくるが、それが活動につながることはほとんどなく、また大きなお世話になりそうだという思いもある ・気持ちはあるが、実行するには勇気が必要

**社協では！**

個人のつながりを活かした助けあい、福祉会活動、ささえ～る片貝等による地域福祉活動について評価する方が多いと共に、若い世代とのつながり作りや地域活動の周知が課題であるといった意見も多い結果となりました。社協としては福祉会の活動支援を継続し、子育てサロンや世代間の交流を通じ若い世代が参加できる場づくり、また地域に根差した支え合い活動の継続に向けささえ～る片貝の活動をバックアップしていきます。